

令和3年度大阪府生野聴覚支援学校 学校教育自己診断 結果分析

1 結果分析の手法

- (1) 学校教育自己診断の項目は、府教育委員会の「自己診断実施上の留意点」に基づき、府教委が要項で定める学校教育自己診断の内容（必須項目）と本校独自の項目を付加した内容で診断票を作成し、児童生徒、保護者、教職員を対象に実施した。
診断項目については、昨年度結果と比較できるように同じ内容で実施した。
回答は「1 (A) : よくあてはまる」「2 (B) : ややあてはまる」「3 (C) : あまりあてはまらない」「4 (D) : 全くあてはまらない」とした。
- (2) 集計に当たっては、肯定的な回答【A+B】（肯定率）、否定的な回答【C+D】（否定率）、無回答（無回答率）に分類し、顕著な数値を網掛けで表示するとともに、前回結果と比較できるようにその差を変化ポイントとして表記した。
- (3) 回収率は、児童生徒 100%、保護者 76.3%、教職員 100%であった。

2 児童生徒 結果分析

(1) 小学部児童

- 肯定率の全体平均は 82.3%で、前回の 74.8%より 7.5 ポイント増加した。否定率の全体平均は 10.9%で前回の 11.7%より 0.8 ポイント減少した。
- A 回答だけで 60%を超えた項目は 9 項目に増加した（前回 7 項目）。「1 がっこうに いくのは たのしい。」(67.5%)、「2 なかのよい ともだちが いる。」(75.0%)、「4 話したり、相談したりできる先生がいる。」(67.5%)、「5 先生は、わたしが がんばったことを 分かってくれる。」(67.5%)、「9 先生は、みんなが なかよくできるように、考えてくれている。」(72.5%)、「10 じしんや かじなどが おこったとき、どうすればよいか、わかりやすく おしえてもらっている。」(70.0%)、「11 行事は、楽しい。」(77.5%)、「13 給食の 時間は 楽しい。」(60.0%)、「14 先生は、いじめで 困ったときに 助けてくれる。」(67.5%)
- D 回答だけで 20%を超えた項目は 1 項目だった（前回なし）。「12 近くの 学校や 地域の 人との 交流は、楽しい。」(22.5%)
- 肯定率が 90%以上の項目は 4 項目だった（前回なし）。「2 なかのよい ともだちが いる。」(90.0%)、「3 先生は、わたしの 心や 体のことを 分かってくれている。」(90.0%)、「8 命の 大切さや 生活の ルールについて べんきょうしている。」(92.5%)、「11 行事は、楽しい。」(90.0%)
- 否定率が 20%以上の項目は 1 項目に減少した（前回 2 項目）。「12 近くの 学校や 地域の 人との 交流は、楽しい。」(30.0%)
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は、5 項目だった。「3 先生は、わたしの 心や 体のことを 分かってくれている。」、「7 学校では、大きくなった時のことを 考える べんきょうが ある。」、「8 命の 大切さや 生活のルールについて べんきょうしている。」、「9 先生は、みんなが なかよくできるように、考えてくれている。」、「14 先生は、いじめで 困ったときに 助けてくれる。」
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目は、1 項目だった。「12 近くの 学校や 地域の 人との 交流は、楽しい。」

(2) 中学部生徒

- 肯定率の全体平均は 77.4%で前回の 85.6%より 8.2 ポイント減少した。否定率の全体平均 20.9%は前回の

12.0%より 8.9 ポイント増加した。

- A回答だけで60%を超えた項目は3項目に増加した(前回2項目)。「2 なかのよい友だちがいる。」(73.9%)、「2 先生は、わたしの 障がいについて よく理解してくれている。」(60.9%)、「11 行事は、楽しく参加できる」(65.2%)
- 肯定率が 90%以上の項目は 2 項目に減少した (前回 4 項目)。「2 なかのよい 友だちがいる。」(91.3%)、「10 地震や火災などが おこった時、どのような行動を とればよいか、分かりやすく 知らされている」(91.3%)
- 否定率が 20%以上の項目は 7 項目に増加した (前回 3 項目)。「1 学校に行くのは 楽しい。」(26.1%)、「4 気軽に相談できる先生が いる」(39.1%)、「7 学校では、大きくなったときのことや 将来の生き方について 考える機会がある。」(26.1%)、「8 命の大切さや 社会のルールについて 学習している。」(26.1%)、「12 近くの学校や 地域の人々との交流は、楽しい。(部活動の交流を含む)」。(52.2%)、「13 給食の時間は 楽しい。」(21.7%)、「15 部活動は、楽しく参加できる。」(26.1%)
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「14 先生は、いじめについて 私たちが 困っていることがあれば 真剣に対応してくれる。」
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目は 6 項目だった。「1 学校に行くのは 楽しい。」、「4 気軽に 相談できる先生が いる。」、「7 学校では、大きくなったときのことや 将来の生き方について 考える機会がある。」、「8 命の大切さや 社会のルールについて 学習している。」、「12 近くの学校や 地域の人々との交流は、楽しい。(部活動の交流を含む)」、「15 部活動は、楽しく参加できる。」

3 保護者 結果分析

(1) 幼稚部保護者

- 肯定率の全体平均は 94.9%で前回の 95.6%から 0.7 ポイント減少した。否定率の全体平均は 3.2%で、前回 3.5%から 0.3 ポイント減少した。
- A回答だけで 60%を超えた項目は 15 項目に増加した (前回 12 項目)。「1 学校は、体罰防止にとりくんでいる。」(67.5%)、「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(82.5%)、「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(80.0%)、「4 学校は、子どもの課題にあった授業をしている。」(67.5%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を 理解している。」(90.0%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を 適切・公平に評価している。」(70.0%)、「7 学校は、保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(80.0%)、「8 学校は、教育に必要な情報を 知らせる努力をしている。」(67.5%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(75.0%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(70.0%)、「11 学校は、安全面で施設、設備の環境整備を行っている。」(65.0%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に 共感できる。」(60.0%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(80.0%)、「15 子どもは給食を楽しみにしている。」(70.0%)、「17 学校は、いじめについて 子どもが困っていることがあれば 真剣に対応してくれる。」(62.5%)
- 肯定率 90%以上の項目は前回と同じで 16 項目だった。
- 否定率が 20%を超える項目はなかった (前回もなし)。
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

(2) 小学部保護者

- 肯定率の全体平均は 77.3%で、前回の 84.8%から 7.5 ポイント減少した。否定率の全体平均は 17.8%で前回の 13.3%から 4.5 ポイント増加した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は前回と同じで 1 項目だった。「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(82.4%)

- 肯定率 90%以上の項目は、3 項目に減少した（前回 4 項目）。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」(91.2%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(91.2%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(94.1%)
- 否定率が 20%を超える項目は 9 項目に増加した（前回 4 項目）。「2 学校は、教育方針や課題を分かりやすく伝えている。」(23.5%)、「7 学校は、保護者の悩みや相談を 聞いてくれる。」(20.6%)、「8 学校は、教育に必要な情報を 知らせる努力をしている。」(29.4%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(23.5%)、「12 学校の幼児児童生徒指導の方針に 共感できる。」(20.6%)、「14 学校は、将来のことや進路などについて 適切な指導を行っている。」(29.4%)、「15 子どもは、給食を楽しみにしている。」(26.5%)、「16 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあたっている。」(26.5%)、「17 学校は、いじめについて 子どもが困っていることがあれば 真剣に対応してくれる。」(26.5%)
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 3 項目だった。「8 学校は、教育に必要な情報を 知らせる努力をしている。」、「14 学校は、将来のことや進路などについて 適切な指導を行っている。」、「17 学校は、いじめについて 子どもが困っていることがあれば 真剣に対応してくれる。」

(3) 中学部保護者

- 肯定率の全体平均は 85.3%で前回の 85.1%から 0.2 ポイント増加した。否定率の全体平均は 8.8%で前回の 10.6%から 1.8 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 1 項目に減少した（前回 4 項目）。「15 子どもは、給食を楽しみにしている。」(62.5%)
- 肯定率 90%以上の項目は 5 項目に減少した（前回 6 項目）。「3 子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。」(93.8%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(100%)、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」(93.8%)、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」(93.8%)、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(100%)
- 否定率が 20%を超える項目は 1 項目に減少した（前回 4 項目）。「16 学校は、聴覚障がいに関わる関係機関や医療機関等と連携して、指導にあつたっている。」(25.0%)。
- 前年度比較で、肯定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」
- 前年度比較で、否定率の変化が 10 ポイント以上増加した項目は 1 項目だった。「14 学校は、将来のことや進路などについて 適切な指導を行っている。」

(4) 保護者（全体）

- 肯定率の全体平均は、86.5%で前回の 89.9%から 3.4 ポイント減少した。否定率の全体平均は 9.7%で前回の 8.4%から 1.3 ポイント増加した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は前回と同じ 4 項目だった。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている」(67.8%)、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」(67.8%)、「7 学校は保護者の悩みや相談を聞いてくれる。」(62.2%)、「13 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(76.7%)
- 肯定率が 90%を超える項目は 8 項目に増加した（前回 7 項目）。「3 子どもは学校に行くことを楽しみにしている。」、「4 学校は、子どもの課題にあつた授業をしている。」、「5 学校は、子どもの聴覚障がいの状態を理解している。」、「6 学校は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。」、「9 学校は、家庭と連携して指導にあたっている。」、「10 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」、「11 学校は、安全面で施設・設備の環境整備を行っている。」、「13 学校の授業

参観や学校行事に参加したことがある。」

- 否定率が 20%を超える項目は前回と同様になかった。
- 前年度比較で、肯定率、否定率ともに、変化が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。

4 教職員 結果分析

- 肯定率の全体平均は 84.6%で、前回の 79.2%から 5.4 ポイント増加した。否定率の全体平均は 13.4%で、前回 18.8%から 5.4 ポイント減少した。
- A 項目だけで 60%を超えた項目は 1 項目だった（前回も 1 項目）。「16 けがや病気の時、やさしく適切に子どもに対応、看護している。」(62.9%)
- 肯定率が 90%を超える項目は 12 項目に増加した（前回 6 項目）。「1 本校は、体罰防止に取り組んでいる。」(95.7%)、「5 施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている。」(92.9%)、「6 個人情報保護の観点から、幼児児童生徒の個人情報に関する管理システムが整っている。」(94.3%)、「10 幼児児童生徒の指導において、家庭との緊密な連携ができています。」(97.1%)、「11 学校は、個別の教育支援計画、指導計画に基づき、工夫・改善しながら、幼児児童生徒の指導にあたっている。」(91.4%)、「12 児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。」(95.7%)、「13 児童生徒が楽しく行事に参加できるよう、工夫・改善を行っている。」(95.7%)、「16 けがや病気の時、やさしく適切に子どもに対応・看護している。」(98.6%)、「19 校内研修は、幅広い教育実践に役立つような内容となっている。」(90.0%)、「24 子どもたちは、給食を楽しみにしている。」(94.3%)、「25 学校は、進路に関する保護者の質問に適切に答えている。」(92.9%)、「26 いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」(90.0%)
- 否定率が 20%を超える項目は 3 項目に減少した（前回 10 項目）。「8 近くの学校や地域の人々との交流や連携が活発に行われている。」(67.1%)、「21 学校経営計画を踏まえ各部署の一体化が進められている。」(24.3%)、「22 教育相談体制が整備されており、幼児児童生徒は担任以外の教職員とも相談することができる。」(24.3%)
- 前年度比較で、肯定率が 10 ポイント以上増加した項目は 7 項目だった。「2 学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている。」、「3 学校運営に、教職員の意見が反映されている。」、「4 事故・災害等に対して迅速に対処できるよう、役割分担が明確化されている。」、「11 学校は、個別の教育支援計画、指導計画に基づき、工夫・改善しながら、幼児児童生徒の指導にあたっている。」、「19 校内研修は、幅広い教育実践に役立つような内容となっている。」、「21 学校経営計画を踏まえ、各部署の一体化、学校組織の一体化が進められている。」、「25 学校は、進路に関する保護者の質問に適切に答えている。」
- 前年度比較で、否定率が 10 ポイント以上増加した項目はなかった。